

特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果，世界的位置付けなど。**(評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容)****< 特筆すべき教育活動 >**

- 1 .平成20年度より、大学院進学を目指す4年生に対し、大学院先行履修科目を3科目(心理学研究法、教育実践論特論、教育測定論)開講した。平成21年度には2科目、平成22年度にはさらに3科目(教育設計論、教育テスト論、教職論)を追加し、学部教育と大学院教育との接続の連続性をさらに高める取組をおこなっている。
- 2 . ロンドン大学IOEとの提携講義として、学部生・大学院生を対象とする「比較教育学」の演習において、専門英語による授業を平成21年度実績で3年連続行い、受講生の国際感覚とコミュニケーション能力の育成を図った。
- 3 .海外へのインターンシップとして平成21年度実績として6名の学生を派遣した。派遣国はフィンランド、アメリカ、イタリア、ニュージーランドと多岐にわたっている。
- 4 .平成19年度開始の組織的な大学院教育改革推進プログラム「実践指向型教育専門職の養成プログラム」を平成21年度に完遂し、「大学院生中心プロジェクト型共同研究」「学際プロジェクト型共同研究」などの新たな大学院生の指導ノウハウを確立し文書化した。
- 5 .大学院生が「精神病発症リスク状態における認知的洞察と自己・他者スキーマ」の研究で日本統合失調症学会の学術賞を受賞した。

< 特筆すべき研究活動 >

- 1 .大学院GPにおいて、教員による学際的プロジェクト型共同研究3件を実施し、教育と共に研究面で先端的知見を提供した(教育学研究科『平成21年度組織的な大学院教育改革推進プログラム・実践指向型教育専門職の養成プログラム・プロジェクト型共同研究 成果報告書』2010年3月)
- 2 .21年度総長裁量経費を受けて「東北大学における発達障害学生修学支援システムの構築」を高等教育開発推進センター、教育情報学研究部・教育部の協力を得て実施した。その内容は、全学対象のアンケート調査、9大学合同研究協議会及びシンポジウム、ピア・サポーター養成講習会、海外調査などに及んでいる。22年度は研究科長裁量経費により継続して取り組んでいる。
- 3 .教育ネットワークセンター支援の先端的プロジェクト型研究を4件実施した。その成果は、教育学研究科『教育ネットワークセンター年報』第10号(2010年3月)に掲載した。
- 4 .国際シンポジウム「アジアにおける教師と学校の挑戦：シンガポールの場合」(2009年11月21日)、国際セミナー「アジアにおける教師と学校の挑戦：中国の場合」(2009年12月5日)、同「アジアにおける教師と学校の挑戦：韓国の場合」(2010年1月16日)、同「アメリカ高校教育改革の新動向～スモールスクール運動の現状と課題～」(2010年2月19日)を組織的な大学院教育改革推進プログラムの一環として開催した。この一連の成果は、河北新報に取り上げられ、高い評価をうけた(2009年11月27日、2010年1月26日)。

< 特筆すべき社会貢献活動等 >

- 1 . 宮城県内4高校（第二女子高等学校、宮城野高等学校、仙台高等学校、女川高等学校）に対して教育研究連携校を委嘱し、共同研究及び実習等の事業を実施した。
- 2 . 宮城県及び仙台市教育委員会と協定を結び、他学部の学生も含めた「学校ボランティア」を組織し、各小中高等学校に派遣した。その功績に対して仙台市教育委員会より表彰をうけた。
- 3 . 東北6県及び新潟県の教育委員会高校教育課と「東北地区高校教育懇談会」を開催し、講演会（新政権の教育方針、気になる高校生、宮城県高校教育の現状と課題）と各県教育事情報告及び意見交換会を行った（2010年1月29日）。
- 4 . 東北六県及び新潟県の幼小中高教員を対象とした第45回「教育指導者講座」を実施し、受講者より高い評価をうけた（2009年8月）。
- 5 . 教員免許状更新講習（2009年7月、12月、2010年8月）を実施し、小中高等学校教員の資質向上に貢献した。
- 6 . 加藤守通教授は、イタリア・ノラ市で地域文化活動振興に関する招待講演(Biennale Bruniana: l'elogio dell'incertezza)をおこない、好評を博した（2009年4月15日～19日）。
- 7 . 谷口和也准教授は、モンゴルにおける教育改革活動支援の功績で、モンゴル教育文化科学大臣より感謝状を授与された（2009年9月）。
- 8 . 水原克敏教授は、モンゴルにおける長年の研究教育活動支援に対してモンゴル教育文化科学大臣より教育功労賞を授与された（2010年7月31日）。